



DX人材育成講座

～初級編～

◀▶ DataVehicle

「DX」の現状

そもそもDXって？

我々の考えるDXではないもの

DXの現実と理想

DXを推進するための役割

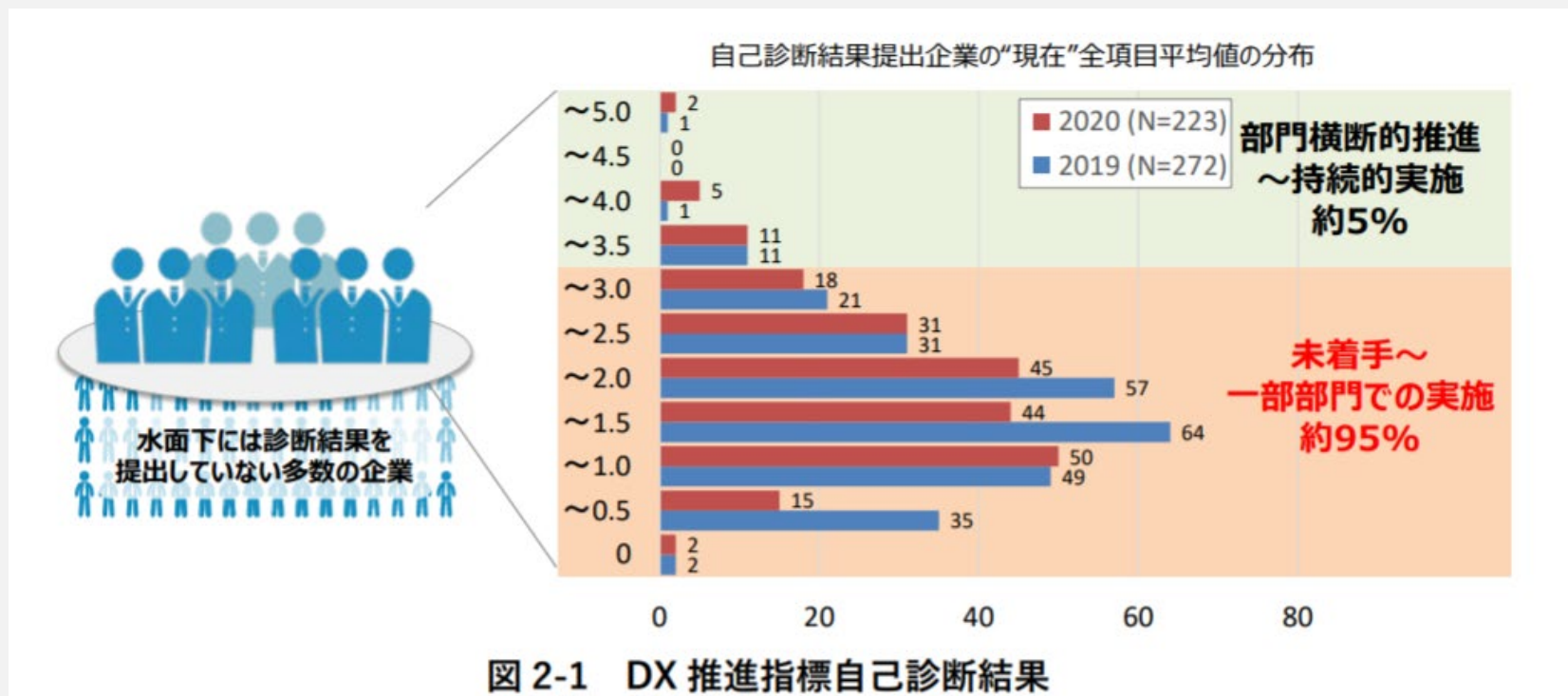
サービス紹介

「DX」の現状

9割以上の企業がDX未着手または散発的な実施のみ

経産省は2020年末のDXレポートにおいて老朽化・複雑化・ブラックボックス化した既存システムがDXを本格的に推進する際の障壁になると警鐘しています。またIPAの調査によれば、2020年10月時点で全体の**9割以上の企業が未着手または散発的な実施のみ**と報告されています。

2019年・2020年ともに回答が約300件、うち約半数が大規模企業と、水面下にはこのデータに含まれない企業の存在もあるかもしれませんが、今後デジタル競争における勝者と敗者の明暗がさらに明確になっていくと予測しています。



そもそもDXって？

「データを元に意思決定につなげられること」

DXという言葉はあらゆるビジネスシーンで聞くようになりましたが、定義があいまいな印象をお持ちの方もおられると思います。経産省のあるDXレポートでDXは以下のように説明されています。

この文章を読み取ると「データを元に意思決定につなげられること」です。ビジネス環境が激しく変化する中、経験と勘では対応できない場面があるかもしれません。今後DXを推進できる人材、つまりデータを元に判断・意思決定できる人材が必要になってくるのです。

< 参考: 「DX推進指標」における「DX」の定義 >

「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化、風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」

我々の考えるDXではないもの

組織・企業文化の変革や競争優位性になっていますか？

書類をPDF化して紙が節約することや、これまで紙で行っていた業務をRPAで自動化する、あるいはレガシーなシステムを特に改修することなくクラウド上へ移行、センサーを取り付けてIoTで「なにか」を把握できるようになるといったことがDXでしょうか。

先ほどの経産省の定義と重ね合わせて考えてみましょう。これらを行うことが**企業の文化が変わり、顧客のニーズをくみ取れるようになるなど業務の変革**ができた実感できるでしょうか。競争優位性についてもこれらでは足りないと考えています。

書類をPDF化して
メールでやり取り

古い紙ベースの業務を
RPAで自動化

レガシーな業務システムを
クラウド移行

とりあえずセンサーを
ばらまくIoT

DXの現実と理想

データを元に意思決定サイクルを回せることが理想

多くの企業で、活用の意識がないままデータが貯められていることがよくあります。そのままのデータの状態では分析できず、分析をするにしても業務を知らない人が行うだけで次のアクションに繋がられていないこともあります。

DXが出来ている状態というのは、分析に使えるデータがあり、分析者がそのデータに迅速にアクセスでき、適切な手法で分析結果が出すことができ、それをもとに意思決定をし、アクションを起こした結果をまたデータに蓄積できる状態です。

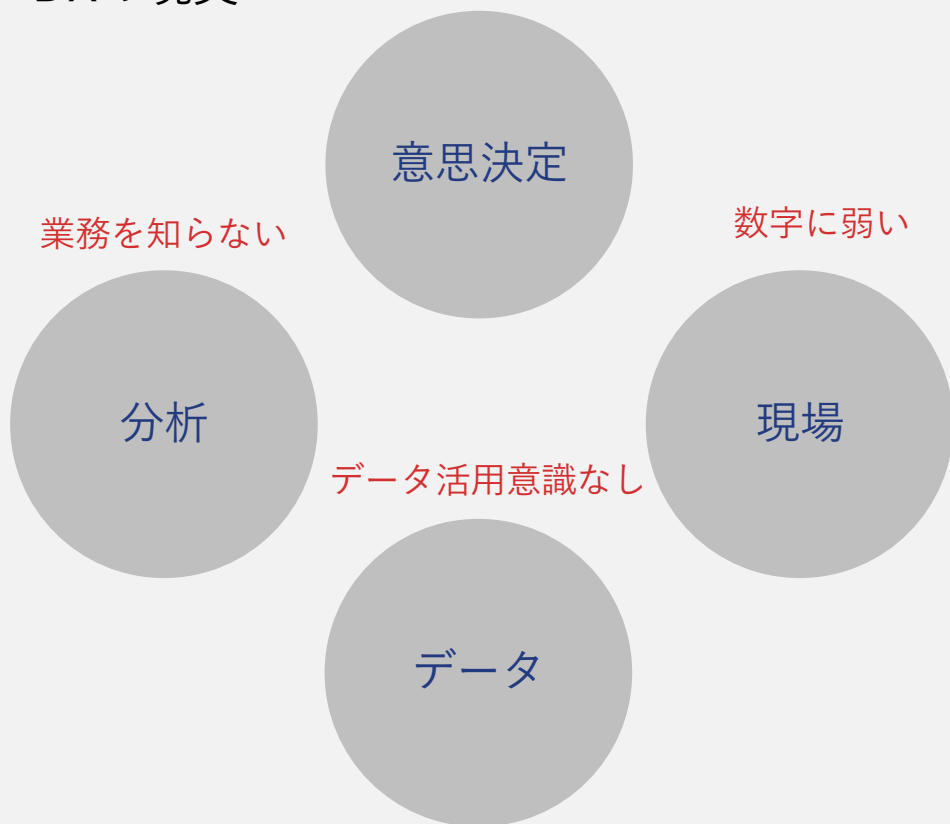
DXの現実

責任を取るのが嫌い

業務を知らない

数字に弱い

データ活用意識なし



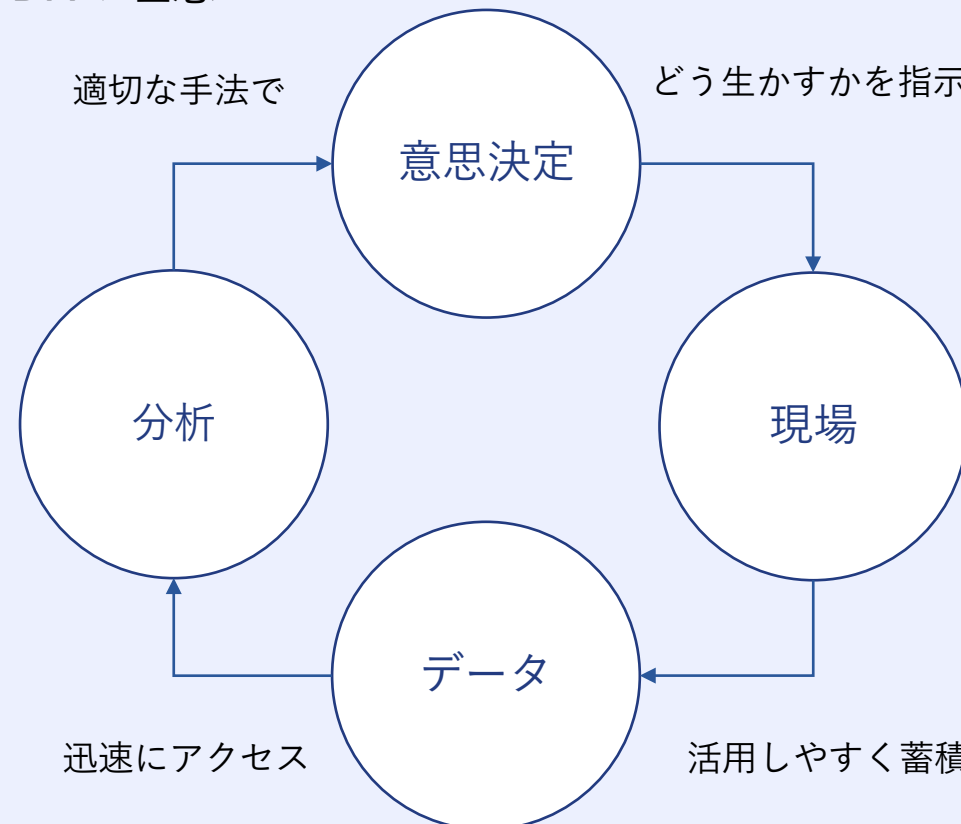
DXの理想

適切な手法で

どう生かすかを指示

迅速にアクセス

活用しやすく蓄積



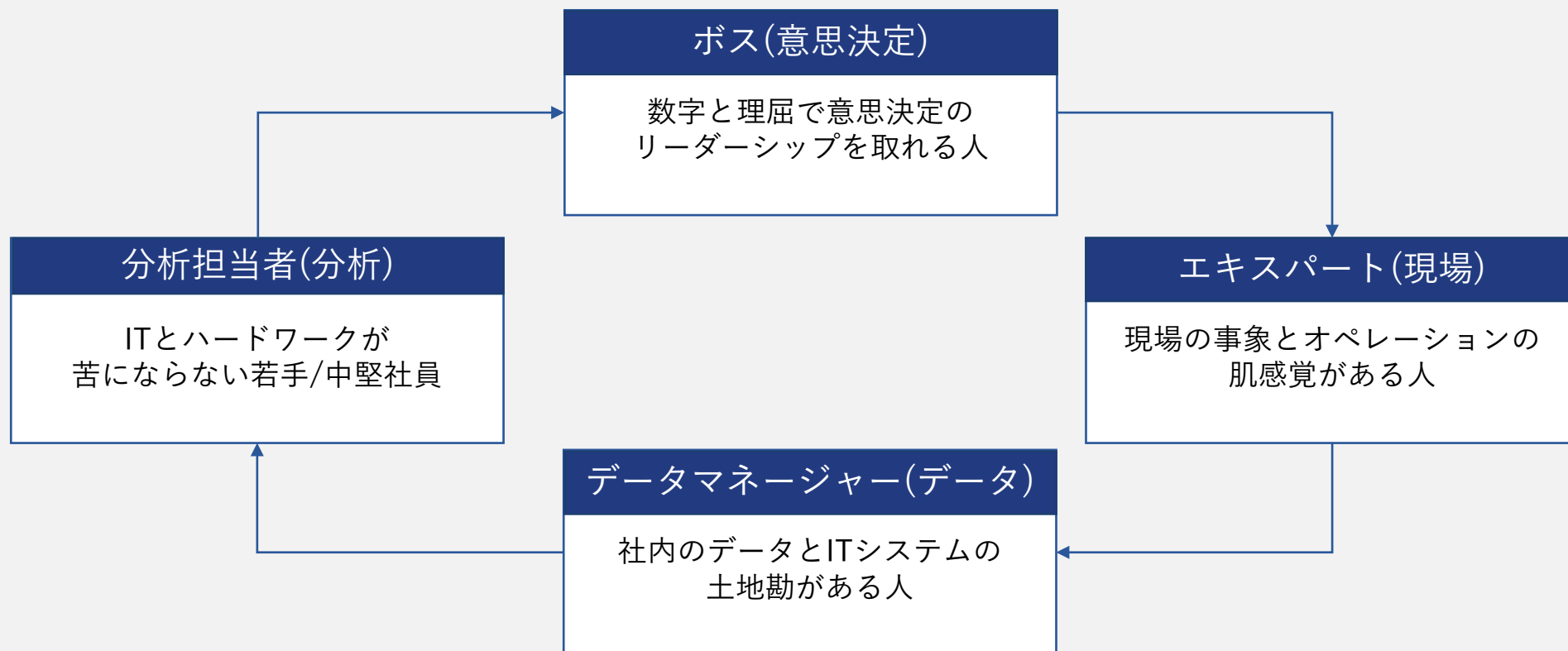
DXを推進するための役割

データ活用には役割分担が大切

DXを推進するには4つのポジションが揃っていることが望ましいと考えています。

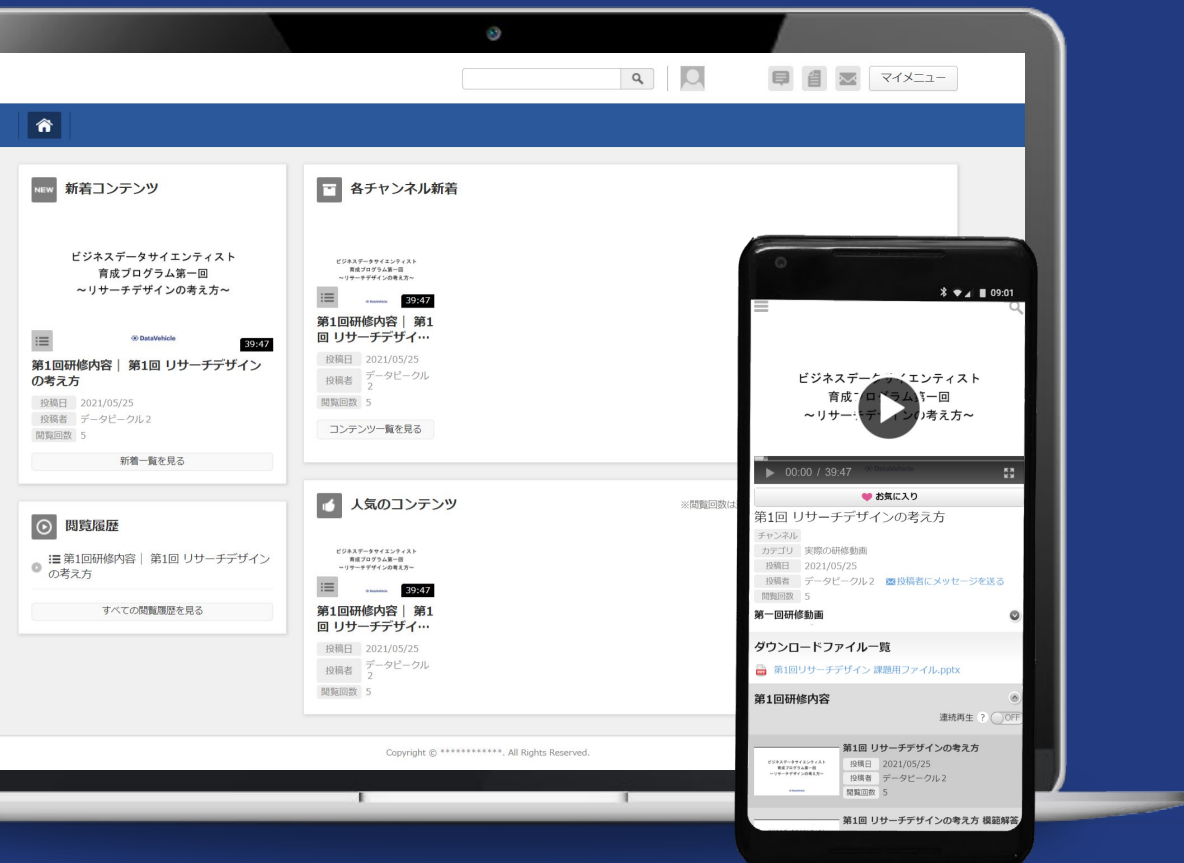
- ①意思決定を行う人
- ②現場の業務に詳しい人
- ③社内外のデータをわかっている人
- ④分析を行う人

この中でも特に不足しがちなポジションはボスです。データ分析結果が明らかになってきた際に意思決定をができリーダーシップを発揮できる人は誰か、その人の権限は何かも整理が必要になります。



◇◇ DataVehicle

—サービス紹介—



DX人材研修プログラム

データに基づいた施策立案の方法を体系的に理解します。

今回はこれまでデータサイエンス事業で取り組みやデータ活用支援のノウハウをまとめた「DX人材育成研修プログラム」についてご紹介します。

本研修では、実際にデータを使ってDXを進めていくノウハウを知り、実際の業務でDXを実践するためのスキルを身につけることで、付加価値の高い人材の育成を目指します。

目的

データ分析プロジェクト疑似体験し、
その工程、手法を理解し身につけること

※PythonやR言語の習得を目的としていません



狙い

研修を通じて得たノウハウを今後の業務を通じて実践することで、付加価値の高い人材を育成すること



DX人材研修プログラム(スケジュール)

8週間のオンライン研修で動画は繰り返し視聴できます。

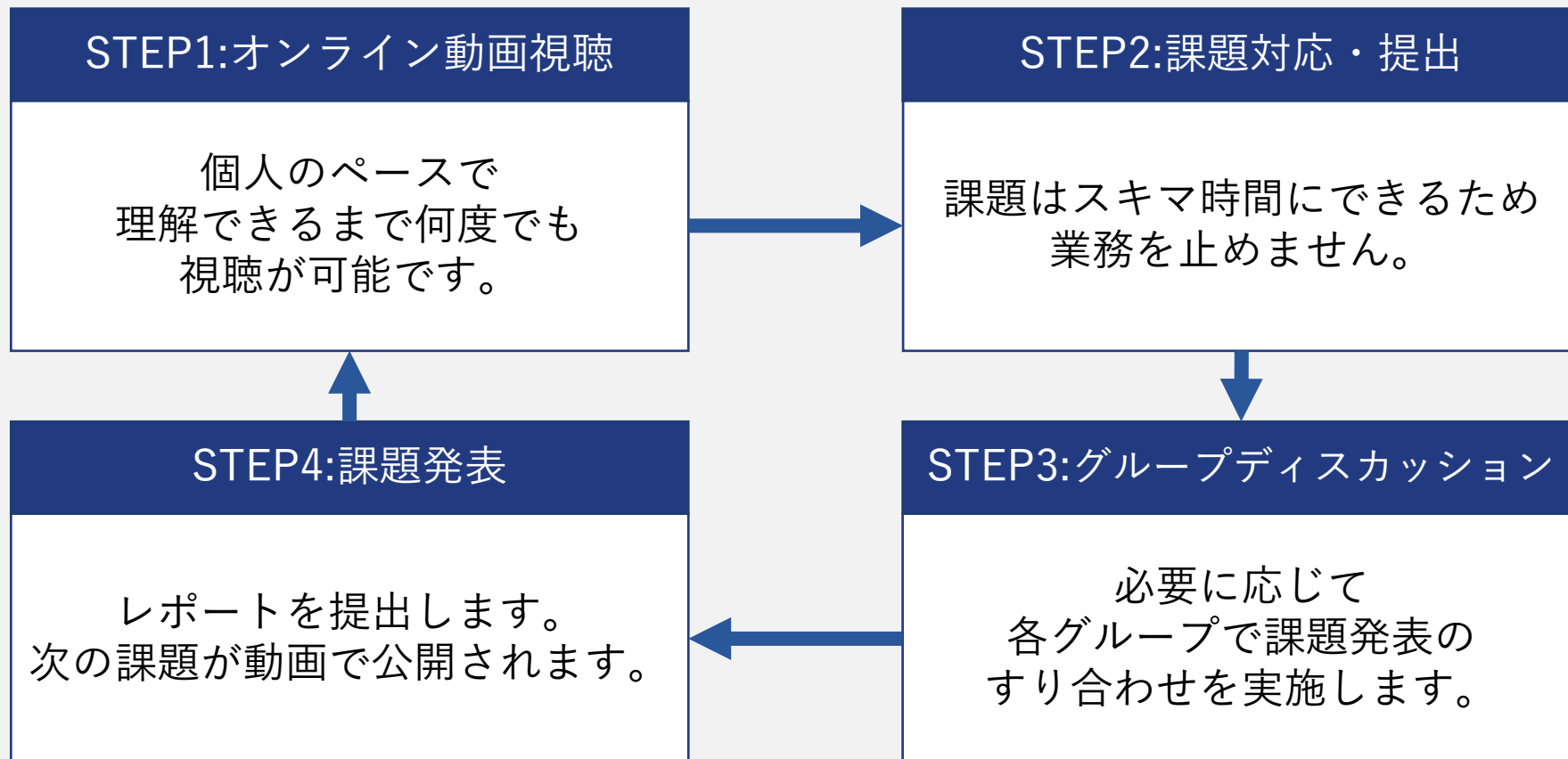
研修は8週間でオンライン形式で実施になります。実践的なデモデータを用いて、分析目的の設計から施策立案やデータ加工の方法などを学習します。別途、数学の補強コンテンツを見ていただくことも可能です。



DX人材研修プログラム(毎週の流れ)

課題の提出とフィードバックを繰り返します。

オンライン動画(各回30分～60分程度)を毎週視聴し、課題の提出を行います。その後、必要に応じてグループディスカッションを行い、課題発表に対してフィードバックを受けます。講座をただ受けるだけでなく課題を行うことで、より深く理解することができます。



DX人材研修プログラムのご案内

対象	データに基づいた意思決定をビジネスに取り入れたい企業 データドリブンな組織にしていきたい企業
おすすめ	DXを推進したいが何から手を付ければいいかわからない企業 意思決定が属人的でパフォーマンスにばらつきがある企業
期間	2カ月
参加可能人数	5名～20名(21名以上は要相談)
費用	お問い合わせください https://www.dtvcl.com/contact/



DataVehicle